

50代からの働き方

田中尚輝（WAC常務理事・市民福祉団体全国協議会常務理事）

社団法人長寿社会文化協会は港区からの補助金で、この無料職業紹介所「みなど・しごと55」を運営していますし、また千葉県の指定管理事業者として、JR我孫子駅のすぐそばで健康推進のための事業を受託しています。1億数千万円の事業ですが、そこでは50人以上のシニアを雇用して運営しています。みなど・しごと55でも60歳以上が4人、働いています。

これからは、仕事を自分で作れる時代でもあるし、高齢になっても働いていく時代でもありますので、そういうチャンスや思考方法なども持っていただければうれしいなと考えています。

■50代を過ぎると仕事はなかなかみつからない

50代からの働き方をいうテーマですが、全員の皆様にぴったりあてはまるかどうかはわかりませんが、お話してみたいと思います。

50歳を過ぎると、ハローワークに行ってもなかなか就職先がみつかりません。法律で禁止されていますから、何歳以上はダメ、という求人情報にはなっていませんが、実際の採用部署では、履歴書の年齢をみて不採用にしているのが現状です。実際には、年齢による雇用差別があるのです。良いか悪いかでいえば、年齢による雇用差別や性別による雇用差別もあってはいけないのですが、厳然とした事実として雇用差別は存在しています。ですから、権利の問題として怒っているのですが、しかし企業とけんかしても、実際にはなかなか仕事を見つけることはできません。

つまり大前提として考えていただきたいのは、雇用環境が悪くなってきている。つまり、40代のときはそれでも大丈夫だったけれど、50代を超えとなかなか仕事はない。60代をこえるともっとなくなります。そういう方々と話していて一番危険に思うのは、自分には能力もありちゃんと仕事をしようと思っっているのに、何社面接を受けても雇用してもらえないので、次第に自分の能力を疑うようになってくる人がでてくることです。これは全く間違いで、人間的な能力の向上と、就業するという可能性、できるということの間には何の関係もありません。ある意味では、人間的能力が高まれば高まるほど就業の機会が失われるというように、反比例するとみていいかもしれません。従って、そのことであまり落ち込まないでいただきたい。そうはいつてもなかなか仕事が見つからないので、落ち込まないでいるのは無理かもしれませんが、基本的に人間的な成長と就業機会は比例しませんので、私のような人間を雇わないのはおか

しいと開き直って、就業の機会を探していく以外にないのかもしれませんが。

■同一労働同一賃金への方向に

また、同一企業でずっと働いてきた人を考えても、同一企業における賃金曲線と労働能力との関係はあまりないのです。いいたいことは、賃金は能力によって支払われているのではないということを知ってほしいということです。

一般企業でいえば、20代、30代、40代と賃金カーブは上がってきて、40代を過ぎると賃金カーブは下降線をたどるようになっていきます。これに対して、労働力、というか人間が働く労働の質は、入社の際の初任給低いんですが、初任給ほども働けない。働く能力は低いんです。一般論で言えば徐々に能力が上がって40代のあたりでピークになり、あとはだんだん下がってくるんです。賃金との関係で言えば、能力が落ち始めてからも賃金だけは高いという状態になっているのです。企業からすれば、若いときに払いすぎた分を40歳前後のところで取り返して、あとはまた支払いが超過するということになっています。ですから、お金で皆さんの評価が決まるわけではありません。労働賃金という決め方はあるのですが、それは決して人間の評価を決める基準ではないという大前提を強調しておきたいと思います。

問題は、同一企業でずうーっと働く人はいいのですが、これからの世の中では、そういうことがどんどんなくなります。

以前は、中卒で働き始めた人は、勤め始めて3年で7割は辞めていたんです。高卒が5割、大卒は3割辞めていました。しかし今は、大卒でも3年間で半分ぐらいは辞めています。今の日本は過渡期ですから、一企業でずうーっといられる時代は崩壊してきています。崩壊すると、どういう形の対応をするかといえば、そういう形で労働政策が一番うまくいっているのは、オランダとかスウェーデンとかフランスです。どういうふうになっているかというと、年齢による生活給という支払い方で給料を支払っているのではなくて、年齢とは関係なく、同一労働・同一賃金という支払い方でやっています。同じ仕事を1時間すれば、男でも女でも若い人でも年寄りでも同一の時給であるということにする。つまり、この仕事の価値はそういうものですよ、ということに日本もだんだんなっていくます。

ならない要因がいくつかあります。それは企業がたいへん抵抗しているということと、労働組合も多くは本工(?)の人が多いため、本工の人は同一労働同一賃金にすると、自分の賃金を下げなければならなくなるから、抵抗します。そういうことで、転換はなかなか難しいのですが、かならずそういうことになります。ただ、ここ1~2年では、そういうことにはなりませんので、皆さんに長生きしてもらって、転換を早めるにはどうしたらいいかを一緒に考

えてほしいと思います。ちょうどいいことに総選挙がありますので、労働政策について、与党がいいのか野党がいいのかをよく見比べてから投票してほしいと思います。この点などは直接我々に返ってくる問題で、そのところは大変に重要な問題だと思います。

■意味ある資格を取ろう！

私たちが就職して給料をもらうということは、つまり労働力を売っているだけで、人間を売っているわけではありません。しかし、採用する立場にたてば、その仕事ができるかどうかだけをみるわけではなく、基本的には人間性がどうかをみるわけです。なかなかむずかしくて、見事に騙されることもよくあるのですが、騙すのもテクニックですから、いろいろやってみることでしょう・・・

採用に当たる側はそうなのですが、今日、強調しておきたいことは、資格の確保なんです。特に、それなりに年齢の高いと思われる方は、50歳以上の方は、資格問題を逃げないでください。雇う側に立てば、書類選考の段階から、資格がある人となない人では見られ方が違います。その資格も、意味ない資格をとるのではなく、意味ある資格をとることをお勧めします。

私は、介護保険事業者の連絡協議会をやっていますが、そのなかで比較的優雅な生活をしている人は、ケアマネジャーの資格を持っている人です。ケアマネジャーというのは、ご存知だと思いますが、たとえばAさんという人のケアプランを作っていく専門家です。そう高いといえるかどうかはわかりませんが、東京では月額30万円を下らない給料を、企業側は赤字でも支払っています。それには当然理由があるのです。法律上、こういう場合はケアマネジャーをおかなければならないと決まっています。たとえばグループホームにも置かなければなりません。置いていないと、記憶にある方もいらっしゃるでしょうが、何年前にコムスンという会社が倒産に追い込まれましたが、あれは資格を持った人をちゃんと配置していなかったという理由で摘発されたのです。虚偽の申請をしていたから、倒産に追い込まれてしまったんです。

介護の現場の話をしてしまうと、私がよく知っている60歳ぐらいの女性なのですが、1週間に2日ほどケアマネジャーとしてあるグループホームで働いて、それなりに必要なお金を確保し、次のステップに上がるために、その人は全体の勉強を始めています。

たとえばケアマネジャーという資格を取るには、一般的にはホームヘルパー2級という資格があるのですが、2級を取ったあとに5年間の実務経験がないと受験資格がないのです。ということは、ゼロから始めようとする、最低5年間の時間的猶予が必要ということになります。ですから、すぐ取れる資格もあるのですが、すぐ取れる資格はほとんど利用価値がなくて、それなりの時間

と学習をしないと意味ある資格は確保できないということになります。

そういうことで、何をおやりになろうと自由なんですけど、何かやろうとするときに、年齢が高くなれば人間的能力は高まるのですが、一般論でいうと求人側の評価は低くなってきます。そこのところを補うのは資格であったり技能であったりするという事です。営業だけでやれる人は、あまりそこのところは気にする必要はありません。営業は、売り上げによって賃金が入ってきますので、自分は天性の営業の才があるという人は、資格のことはあまり気にしなくても大丈夫です。ただ一般的には、採用する側からいけば、資格問題は非常に重要な要素になっているということです。

■どんな仕事をしたいかをよく考え、長期的取り組みを

ですから、資格問題をできるだけ体系的に考えてほしいということです。たとえば、今年は宅地宅建主任をとったら、来年は不動産鑑定士に挑戦するとかいうふうに、その分野についてしっかり先をみて取り組んでいくと、自分を売るときに価値が高まっていくことになります。

私は高齢者の住宅問題にも関心があって、いろいろやっていますが、この場合に、かなりむずかしい資格なんですけど、宅地宅建主任という資格があります。これを持っている人はかなりな数いらっしゃるんですね。ところが、お客様が家を建てる、あるいは売ったり買ったりするときには宅地宅建の知識だけでなく金融的な知識もかなり必要になってきます。それから、私のように高齢者の住宅問題を考えようという場合には、成年後見という制度がありますが、高齢者の権利であるとか遺産相続であるとか、そういう類の知識も必要になります。

ハローワークの求人情報を見ていただいてもわかるように、これだけ不況ですが、人材が足りないといっている業界もあるのです。介護関連や不動産関連は絶対的に働く人の数が足りていません。そういうところに自分が向いているかどうかを考えていただいた上で話になりますが、資格問題の重要性と、自分がどういう仕事をしたいかを考えた上で、体系的に資格を取得していただくことが重要です。このためには、当面は労働条件悪くても早めに就職して、働きながらそれなりの時間をかけて資格を取得し、最終的には自分がやりたい仕事をやるというふうに順序だてて取り組んでいくことが必要だと思います。

それから、当然のことながら採用する側にしてみると、採用する人の生活状況などは何も関心がないわけで、生活に困っているようだからとか子どもの学資も必要そうだからとかそんなことには何も関心がありません。採用したらこの人をどんなふうに使えるかという観点でしか考えていませんので、資格問題に関しては自分の中でしっかりと考えて長期的に取り組んでいくことが重要だと思います。

■敬遠される介護現場

それから、好きな仕事へのこだわりと有効求人倍率の関係なんですが、つまり一般の不特定多数の人が好む職種であるとか企業などは、当然競争率も高く、採用される可能性も低くなります。余裕があるので、当面は何回落ちても大丈夫だという人はそれでいいのですが、それなりに早めに就職したい方は、一般の人があまり望まない職種を検討していただきたいということです。そういうなかで、自分が考えている希望と接点がないのかということをよく検討してみたいということです。

特に今は介護系の仕事は、有効求人倍率が2.5ですので、労働条件を別にすれば介護保険事業者はどこも人手不足なんです。皆さんが嫌でなければ、多くの介護保険事業者は人材を募集しています。これだけ失業者が多いにもかかわらず、介護系には全人人材が集まらないんです。私は介護系の事業者と親しいのですが、どこも本当に困っています。何で介護系が敬遠されるのかと考えると、それはイメージが悪いからなんです。3Kであるとか労働条件が悪いとか、オムツの交換など自分の親にだって嫌なことを他人にしたくないとか、そんなことを考えて、その仕事にだけはつきたくないと思われるんですね。

■介護現場でのキャリアアップ

私は高齢者のビジネス、シニアビジネスに当然ながら関心があり、高齢者を対象としたビジネスに関する勉強をしています。そういう観点からすると、介護保険の事業所に勤めるということは、清拭とか掃除とか洗濯とか料理とかできないと特に男性の方は言われますが、そういう仕事ばかりではありません。一定時間、たとえば3年なら3年間現場を経験すると、ものすごくおもしろい世界が開けるんです。つまり、キャリアアップするんです。どういうことかという、個人差はありますが今、日本国の中でお金を持っているのは年金生活に入った高齢者なんです。これはよくマスコミ等で取り上げられていますが、日本人の個人資産は1500兆円くらいあるそうです。そのうちの6割は高齢者がもっているのです。60歳以上の人口でいうと3割弱、つまり3600万人ぐらいが約6割の個人資産を持っているんです。60歳以下の方は人口比でいうと70%ぐらいなんです、この人たちは40%ぐらいの個人資産しかないんです。全体的にいえば若い人たちは貧乏で、高齢者はお金持ちなんです。

こういうことから考えても、非常に簡単にいうと、3年間はこの介護の現場で仕事をし、重要なのは、その後のことを考えればいいんです。この3年間の介護現場での仕事が、その後の事業展開にもものすごく役立つというわけです。

いろんな使い方がありますが、一番簡単なことという住宅問題です。住宅関連で、この介護経験があると、現在要介護者の数は430万人ぐらいいるの

ですが、この数はまだどんどん増えていきます。その方々にとって必要な仕事は、介護以外にもたくさんできます。ストレートに言えばまず住宅リフォームの問題、車いすで家の中を移動することができるように、また一人でもお風呂に入れるようにという住宅リフォームの問題がでできます。住宅リフォームの平均単価は、300万円ぐらいになっています。手摺を付けるだけとかいう20~30万円の仕事もありますが、平均単価は300万以上です。なぜかという水回り（トイレや浴室、台所など）や廊下の段差など、長年住んできたところを変えることになるのですから、平均単価は相当高くなります。

それから、そこへいく前の人たち、たとえば50代になると女性たちは、夫がいなくなった後はどうするの？というような話を、夫がいないときによく話しています。どういうことかという、夫がいなくなったら仲間で一緒に住もうというような動きが多くできています。夫がいる間は一緒にいてもいいのですが、夫が死んでしまったらグループハウジングのような集合住宅を建てて、そこで一緒に生活していこうという話です。そのような住宅をコーディネートするとしたら、介護のことがわかっている人であれば、この女性たちに対していろいろなことを提案できるということになります。

ですから、介護事業所に勤めているとしたら、その中に住宅事業部を作って、その責任者は自分がやるから、という提案もできるのです。また、他の住宅産業のところへ自分を売り込んでいくこともできるということです。

■寝たきりでも旅行したい

もう一つ言いますと、この要介護状況になっている人々のなかで、ビジネスがでてくる要件がたくさんあります。その方々は、お金は持っているんです。持ってない人も約3分の1はいますが、ビジネスを考えると、お金を持っている人のことを考えるのが鉄則ですから、そのときに、いろんなことがまだ出来ていないことに気付かされます。

たとえば旅行。旅行が好きな人は、介護保険事業者に入って3年ぐらいは苦労してほしいのですが、その事業所の中に高齢者の旅行事業部というのを作ってもいいですよ。

これは、ものすごくニーズがあります。たとえば車いすに乗ったままでもどこにでも行けるというサービスを展開すればいいのです。今更JTBや日本旅行に採用してもらうのは無理でも、介護保険事業所の中に旅行事業部を作るとは可能なんです。3年間ぐらい介護の仕事をしながらか、旅行業務取扱主任者の資格を取って、高齢者の旅行のあり方について追求し、事業展開することも可能になってくるということです。

皆さんはなかなかわからないかもしれませんが、寝たきり状況になった人は、

動きたくなくて寝たきりになっているわけではありません。動きたいんだけど、手伝ってくれる人がいないから、仕方なく寝ているだけなんです。こういう人ほど、旅行をしたいんです。だけど、諦めているんです。その人たちに年に1回か2回、介護保険事業者が旅行の機会を作る企画を立てていくというのは、社会的にも非常に意味ある仕事ではないかと考えます。

■企業を活用して新しい仕事づくりを

つまり、こういう時代ですから、昔とは違って、皆さんが苦勞して就職されたとしても、その企業で10年とか15年とか安定的に仕事ができるかという、そんな保障はまったくありません。どこへ勤めても、好景気不景気だけではなくて、その産業のあり方の問題があって、1年で首を切られるかもしれないという状況があります。

皆さんもよくご存知のように、トヨタという世界に冠たる企業でも、これからも業績が改善される見込みはちょっとやそっとではできません。基本的に、かなりむずかしいんです。なぜかといえば、基本的に、歴史的にみても自動車の時代は終わっているということです。ハイブリット車を作ればいいのか、そういう問題ではないのです。自動車がなくなるというわけではないけれど、成長産業としての自動車の時代は終わったということです。ですから自動車産業への雇用の吸収力は、これからはどんどん減っていきます。なぜかという、基本的には環境問題があるからです。いくらハイブリット車をつくっても、1台の車をつくるのに1トンの鉄が必要わけで、そういうものを作り続けていく産業が、どこまで許されるのかということにもなっているのです。

この話は別の機会にするとして、40年ぐらい前までは、どこかへ入社したら定年まではなんとかいられる時代でした。しかしこれからは、どこへ勤めても、まったくそういう時代ではなくなったということです。だから企業にしがみつくのではなく、企業を活用して皆さんの能力を活かして、人の役に立つおもしろい事業を作り出すという能力を確保していくことに意味のある時代になってきたのです。

そのときに、たとえば介護のイメージを一面からだけ捕らえないでほしいと思います。皆さんが折角うまれてきたのですから、生涯にわたってなにか自分の夢を実現して、いつかはお亡くなりになるのですが、その前に、充実した人生であったかと思えるかどうか大切です。自分の足跡を振り返って、何を残してきたのかということであり、つまり世の中に対してどのような変化を残してきたのかということが問われているのです。

ですから、平面的に就職問題を考えるのではなく、立体的に就職問題に関しても考えていただくと、今はここに勤めるけれど、ここをステップとして次は

どうするかとか、ここに勤めることによって自分のキャリアアップをして、それを活かしてどうやって次のステップに上がっていくのかという考え方が必要なのではないかと思います。

それと今、これだけ失業者が増えて大問題になっているにもかかわらず人手不足で困っている会社もあるわけで、そこを活用しない手はないんじゃないですか、ということです。無料職業紹介所などを活用して、次へのステップを考えながら、新しい仕事を探していかれるといいと思います。